教育長通信　NO.57

2026.Oct.

ようこそ　教育長室へ

教育長　高木 秀人

今回は、11月14日(土)に開催される「地域で広げる読書フォーラム」と「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」についてお伝えします。

1. 地域で広げる読書フォーラム(11月14日(土)@生涯学習センター)

https://www.niye.go.jp/wp-content/uploads/2026/10/R81114_dokusyo_forum_chirashi.pdf

(1)市川市の読書活動

① 市川市における読書活動の土壌

○ 市川市は、「真間の手児奈」が万葉集で詠まれ、近代には永井荷風をはじめとする多くの文化人が暮らしてきました。これらを背景として、市川市では、以下のような読書活動に関する取り組みを進めてきました。

・「市川手児奈文学賞」(平成12年度～)、「永井荷風文学賞」(令和6年度～)の開催
・中央図書館の開館(平成6年度)、公共図書館と学校図書館とを結ぶネットワーク事業(平成7年度～)
・「子供の読書活動優秀実践校」文部科学大臣表彰を7年連続受賞
・「市川子どもの本の会」や「すがの会」、「市川よみっこ運動」など、地域住民による子どもが読書に親しむ活動が盛況

②「教育振興具体化パッケージ」や「教育振興重点施策」に基づく読書活動の推進

○ しかしながら、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果から、市川市の児童生徒の読書活動に関して、全国 平均と比較して以下の課題が明らかになりました。

・国語の「記述式」の問題について、「選択式」「短答式」の問題と比べて、相対的に正答率が低い
・正答率が低い問題の「無回答率」が高い
・「家庭の蔵書数」が多いにも関わらず、「読書好き」が少ない
・授業で「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」児童生徒の割合が少ない

○ そのため、市長が「市川市教育振興大綱具体化パッケージ」を、教育委員会が「令和8年度教育振興重点施策」 を令和7年度に策定し、「乳幼児期からはじまる読書環境の充実」などを掲げ、以下のような読書活動を推進し、国語力を高める取り組みを進めています。

・探究的な学びを充実する「言語探究科」を新設するため、文部科学省に対して「教育課程特例校」の認定申請
・学校図書館に新聞を配備(小学校2紙、中学校3紙)
・自動車図書館「ミニみどり号」の配備と幼児教育施設への「大型絵本」の配本
・絵本専門士や認定絵本士などによる「読み聞かせイベント」の実施

○ さらに、今年度は、市長と教育委員会が総合教育会議において、新たな教育振興大綱の策定に向けた協議を 進めています。将来像として「～市川クオリティ・ロゴス～言葉の力で 未来を拓く 市川の教育」を掲げ、「読書活動、図書館の充実」などを含めた大綱案のパブリックコメントを実施しました。

(2)地域で広げる読書フォーラム～読書推進人材の活躍に向けて～

○ 読書活動の担い手として、絵本専門士や認定絵本士などの「読書推進人材」が挙げられます。今回のフォーラムは、その「読書推進人材」に必要な知識や実践的なスキル、ノウハウ等を身に付ける場ですが、読書活動や図書館・学校図書館に興味関心のある方は、参加してみてください。

① 2つの講演
・黒井健氏　絵本画家・イラストレーター　　主な絵本作品;「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」(新見南吉作)
・田中勉　文部科学省図書館・学校図書館振興室長

② 3つのワークショップ
1 絵本専門士の活躍に向けて(リカレント)
2 保育・幼児教育における絵本の重要性
3 地域における読書推進人材に期待される役割 (ワークショップ3では、自分も登壇して、市川市の取り組みを紹介。)

2. 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 京都 /地域とともにある学校づくり推進フォーラム2026 京都 (11月14日(土)@京都市(オンライン参加も可))

https://manabi-mirai.mext.go.jp/2026/08/2026kyoto1.html

・過去に何度か紹介してきた当該フォーラムですが、今回はコミュニティ・スクールの先進地域である京都市で開催されます。そのため、分科会では、京都市立学校の様々な事例が取り上げられます。
・なお、京都市は小中一貫教育の先進地域でもあります。